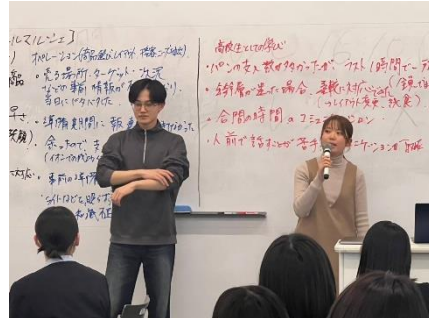


高知県高校生地域創生士育成プログラム スプリングミーティング開催

2月8日（土）、高知県立大学/高知工科大学の永国寺キャンパスを会場にして、高知県高校生地域創生士スプリングミーティング2025が総勢40名の参加で開催されました。

この高校生地域創生士の取り組みは7年目となりました。現時点では、産業教育に関わる県内の学科で学ぶ生徒たちを中心に、本気で地域に向き合い・地域を学び・地域で活動した生徒たちがその成長を発表し共有する場として運営していますが、これに関わる実行委員（大人）の想いとしては、一人でも多くの高知の高校生に自分たちの地域について、考え・実践する機会の提供とその意義や遣り甲斐を実感できるものに発展させたいと考えています。その点で、本年度は東京大学FS（東京大学本部社会連携推進課体験活動推進チーム・フールドスタディ）の学生3名が年度途中からではありましたが、12月に開催したハイスクールマルシェを中心に関わってくれたことで、生徒も実行委員（大人）も新しい切り口でこの活動を俯瞰することに繋がった1年でした。



スプリングミーティングでは、ハイスクールマルシェの振り返りと参加各校・各自のモチベーション向上、7期生の認定証授与、R7学地フェス実行委員への紹介、東京大学FSによる本活動の評価など、充実した内容で実施できました。特にビスタワークス研究所の結城様によるプレゼンは、自分らしくより良く生きるうえで、

本質的な部分を考えさせてくれるものでした。その流れで行われた7期生の認定証授与では、山田高校の中川さん、大方高校の山沖さんの2名が、それぞれの3年間の総括コメントとこれからへの抱負を発表してもらいました。最後に東京大学FS生によるプレゼンは、要点を抑えたうえで高知県高校生地域創生士プログラムを日本や世界の視座で評価するも、thinkglobal ActLocallyの考えを我が国の地方創生の課題感とリンクさせたものでした。中では、過分の評価をしていただいたこと、今後も連携を模索しつつ地方創生に微力ながら協力し合うことを話し合うこともできました。

次年度以降への課題についても話し合わせ、大きな課題として“仲間を増やす”ために具体的な行動計画も立てることが出来ました。全国的にも、コロナによる3年間の停滞から抜け出し各校・生徒による地域との連携学習も新しいステージにジャンプアップしています。これからも高知の未来を担う人材育成に寄与するという想いと覚悟を新たにしてこの活動を続けたいと思います。引き続き皆様のご理解とご協力を賜れば幸いです。

文責：高知県高校生実行委員会事務局（大方高校 金子）